別記様式第２号

2023年９月５日

調　査　報　告　書	（会派の場合） 会派の名称	日本共産党
	代表者氏名	近藤　昇一
	（会派以外の場合） 議 員 氏 名	

参加議員	近藤　昇一	議員	窪田　美樹	議員
	中村　和雄	議員		議員
		議員		議員
		議員		議員

日　　程	2023年　8月　28日（月） ～　2023年　8月　29日（火）
視 察 先	(1)　倶知安町議会
	(2)　美唄市議会
	(3)　美幌町議会
	(4)　網走市議会
視察目的 （項目）	(1)　生ごみ堆肥化処理に関して
	(2)　生ごみ堆肥化処理に関して
	(3)　保健福祉センターを拠点とした活動内容
	(4)　生ごみ堆肥化処理に関して

【調査内容・概要】

(1)　倶知安町議会

(視察項目)生ごみ堆肥化処理に関して＜生ごみ堆肥化処理施設見学＞

倶知安町　人口

面積　261.24㎢

燃やすごみ　　週１回　　生ごみ　　週２回

＊生ごみのたい肥化処理を始める前から、1995年燃やすごみの中から水分が多い生ごみだけを分別し、2005年から燃やすごみを固形燃料化し資源としてリサイクルを始めていました。2022年から衛生ごみ（紙おむつ類）の分別収集を始めています。リサイクル率は87%（2020年）となっています。

有料指定生分解性袋に生ごみを入れ、ごみステーションに置いてある大きなバケツに生ごみを入れ、バケツのままトラックにて回収（新しいバケツと入れ替え）し、処理場へ。バケツのまま回収するので運搬時の臭気の苦情はないと

のことでした。2022 年までは、袋ごとそのままたい肥化処理していましたが、2023 年から破袋機を導入し、生ごみと袋を人の手で分け生ごみのみを施設に投入していました。生ゴミが入ったバケツの積み替え、バケツから破袋機への投入は人力でした。バケツのまま積み替えや、機械に入れるので、もろい生分解性の袋でも問題はないとのことでした。

分解中のたい肥は一日一回大型特殊車両にて攪拌しています。「ＳＩ菌」とチップを使用し、エアレーションは送っていないとのことでした。戻したい肥として３分の２程度使用、3 分の１のたい肥を地元の農家さんに無料で配っているそうです。

2023 年から破袋機を導入しましたが、生分解性の袋をやめる予定はないということでした。袋の結び目や二重袋などがたい肥化に負担がかかるために導入したとのことでした。袋は人の手で取り除くためか、分解中のたい肥には多くの袋や水切りネットの混入がみられました。たい肥の上を大型車両がまたぐ形で走行、攪拌しますが、分解途中の袋もかなり宙に舞っていました。

たい肥化施設の中に行かなくても、臭気が強く施設内のハエの多さには本当に驚きました。臭気、ハエの原因は私にはわかりません。施設の方は気にされていませんでした。「たい肥化は全く問題なく上手くいっている」とのことでした。

生分解性ごみ袋は、20ℓ5 枚、10ℓ10 枚 400 円、5ℓ10 枚 200 円で販売し、「買いだめはしないこと。1 年以上経過すると袋がボロボロになる」と注意を促しています。また、販売店にも「保管場所に気を付けること、半年以上経過したものは販売しないこと」としていました。職員の方からは、生分解性袋は販売すればするほど経費が掛かるとのお話でした。

（２）美唄市議会(視察項目)生ごみ堆肥化処理に関して　生ごみ堆肥化処理施設見学

人口　19,500 人
面積　277.69 ㎢
燃やすごみ　　週１回　　生ごみ　　週２回

＊指定ビニール袋で生ごみのみ（多重袋禁止）を回収しています。市民だけでなく、事業系ごみ（ごみ袋の色が違う）もたい肥化処理しています。指定ごみ袋は、生ごみは低密度ポリエチレン、他の袋は高密度ポリエチレンが使われていました。

パッカー車回収では生ごみを圧縮してしまい水分が出てしまうからと、普通のトラックで回収搬入された生ごみは直接、生ごみホッパーに投入され供給フィーダーですくい上げる形で破除袋機に送り込まれますが、季節により生ごみの水分量が違い、夏季は果物が多く水分が多いためすくい上げることができずたまってしまうことがあったそうです。その場合、２カ所ある生ごみホッパー

の１カ所に戻したい肥を入れ水分を調整し破除袋機に送られていました。水分調整は職人加減とのことでした。破除袋機は、長いものが苦手とのこと。戻したい肥の繊維の長い茎が溜まると、機械（特注５センチ穴パンチング板）に絡みつくようですが、「ふたを開けヘラでこそぎ落とせば問題はない」とのことでした。「スプーンなどの金属類は破除袋機の中で折れ曲がったりして出てくる。それによる機械の故障はない」とのこと。これまでの破除袋機の故障は、８年稼働してきて、機械を回すチェーン部分の交換とパンチング板の交換だけ。メーカーではなく市内の業者に部品製作（破除袋機製作メーカーは、機械図面はくれないため、搬入時に細部の部品サイズを測っておいた）を依頼したので数十万円単位だったとのことでした。その後加圧混練機で生ごみともみ殻を混ぜ合わせ、コンベアーにて発酵槽に移されます。もみ殻（購入）だけでなく繊維の強い草（藁のようなもの）もいれ、特に菌は使用せず、草そのものに菌がついているのでその菌でたい肥化が進むとのことでした。たい肥の攪拌・移動はショベルカーで行っていました。エアレーションは施設の床全体に送られるため、隙間を作るとエアーが漏れてしまう。場所場所にバルブを設け、止められるようにすればよかったとのことでした。たい肥化前段階施設も、たい肥化の施設部分も施設はとてもきれいでした。生ごみ処理量に対し約 10%のたい肥（有料販売）が生産されますが、安定した出荷先の確保が課題ということでした。

(3)　美幌町議会

(視察項目)保健福祉センターを拠点とした活動内容

複合的施設「健康遊浴室」も兼ね備えた「シャキッとプラザ」施設見学

＊保健福祉センターは、役場のすぐ隣に建てられており、各階とも渡り廊下で繋がっていました。町民の方は、利用も相談などもとてもしやすいのではと感じました。主に、ウォーキングプールの見学を希望したのですが、建物全体、複合施設としての内容もとても良いものでした。

施設の 1 階に小さな食事場所があり就労支援Ｂ型としてボランティアの方の協力を得ながら自主営業されていました。また施設全体の清掃も受託されていて多くの方が働いていました。1 階は、多目的ホールも兼ねた集団検診会場や、乳幼児にはプレイルーム（毎日開放）や和室が用意されています。

2 階は、役場の保健・福祉部門だけでなく、社会福祉協議会・在宅福祉支援センターが一緒に相談に応じてくれます。何より驚いたのが、ボランティアセンター・消費者協会・保護司会・更生会・人権擁護などなど、多くの活動団体の拠点となり人々が活動されていました。

3 階はウォーキングをメインとする游浴室（15m×６ｍの小さなプール）があります。暖をとる小浴槽と、広い採暖室には大きな窓があり開放感が感じられます。流水機が設置されており、流水変化による皮膚への刺激はさまざまな効果があるとのことでした。プールの水は塩素での消毒でなく電気分解で発生する活性酸素と電

解次亜塩素酸で徹底消毒されます。以前、別の自治体のウォーキングプールを視察しましたが、消毒塩素による天井や金属の錆がひどく修繕にかなりの費用が掛かるということを聞きました。美幌町では塩素を利用しないため消毒による肌トラブルもなく、体にも優しいシステムとのことでした。深さも変えることができ、保育園児も利用するとのことでした。同じフロアには運動指導室、各種運動器具が設置され、指導員が直接指導しています。利用料は、3か月定期利用券や、町内外利用者に料金差をつけています。調理室もありました。

一つの建物、総合センターの中で高齢者、若者、子どもの三世代がともに心と体づくりができる場所として「長生きを楽しめる街づくり」を推進するため、「高齢者」「障がい者」「児童・父母子」「社会」「地域」とそれぞれの福祉をつなぎ育む複合施設となっていました。

今後、施設には、新設、改修ともに複合的要素が求められてきます。何の要素を複合的に考えていくのかで、福祉向上に寄与されるかが変わってきます。地域性もあると考え住民の方々と共に考えていく必要性をさらに感じました。

(視察項目)町民会館のねらいと、利用状況等

＜町民会館・びほーる＞

＊これまでも成人式や結婚式が行える町民会館がありましたが、老朽化やバリアフリー化を考慮し、改修等の検討が行われ、パブリックコメントも行い改築となりました。

2階に540人収容の大ホール「びほーる（委託運営管理)」があります。各階に中小のホール、会議室・和室があります。可動式の壁を採用し人数や用途、災害時には避難所としての利用も考慮されていました。中小のホールでは24団体が加盟する文化連盟の方々が練習から舞台発表まで気軽に利用していただけてるとのことでした。施設の利用率、稼働率平均 83%と大変高いのですが、使用は減免利用が多いとのことですが、利用してもらうことが一番の目的とのことでした。

町内には、地域の町内会館もそれぞれあるとのこと。「この町内会館は、町民の方の『文化・学習』『集い・交流』『快適・安心・安全』の拠点となる場所。拠点がなくては発展していかない」とのお話がとても印象的でした。

(4)　網走市 議会

(視察項目)生ごみ堆肥化処理に関して　生ごみ堆肥化処理施設見学

人口　33,935人

面積　470.9㎢

燃やすごみ　週1回　　生ごみ　週2回

＊搬入された生ごみは、目視にて異物（纏まったテッシュ等）がないか手選別され、1日置きます。それにより生ごみの水分が出てくるそうです。その後、車両で破除袋機に投入されます。私たちの視察時には、2 台とも稼働していました。「袋や異物は 99%ここで除去される。だから良いたい肥ができる」とのことでした。美唄

市では５センチ穴パンチング板でしたが、網走市は３センチ穴でした。破除袋機の設置場所には排水設備がないため、特に機械洗浄は行っていない。ヘラでごみを取り除く程度の掃除とのことでした。
剪定枝だけでなく購入したチップを副資材として混ぜていました。
　発酵槽は奥がかなり深く、奥から入れた副資材と混合された生ごみは 3 日分ほどで槽にいっぱいになり、次の層に。発酵層のたい肥は 3 週間動かさず、だから 80 度近くまで温度が上がるのだと。切り返しを兼ね次の発酵槽に。そこでは 1 週間動かさず、合計 4 週間でたい肥化完了というものでした。切り返しの車両は大きなホイルローダで、一気に行うという印象を受けました。できたたい肥は販売せず、イベント等で配布や、地元農家さんと藁や草などと物々交換しているとのこと。主な搬出先として、発酵槽がいっぱいになってきたら肥料業者に連絡をして無料で引き取ってもらっているそうです。
　「網走市での失敗は、最初の分別のお願いがうまくいかなかったこと。ティッシュやキッチンペーパーがたい肥化できるわけがない。ティッシュ類がまとまって生ごみの中に入っていると機械が詰まってしまう。だから今でも最初の工程の目視確認が必要なんだ。破除袋機が壊れた原因は、フライパンや石が生ごみとして捨てられていたこと。誰がフライパンや石が生ごみとして捨てられることを想像できたか。破除袋機の動作部分のチェーン部品をベルト化したことでさらに不具合は少なくなる。2 台共に稼働させている」と、自信を持ってたい肥化を進められており、切り返しの車両操作、生ごみの混ぜ方、戻したい肥の量など多くの作業に職員の経験が大変重要だと感じました。